

130 根神社の式三番叟



指 定 市無形民俗文化財 昭和61年9月10日
所在地 春 日
所有者 根神社式三番叟保存会



毎年、4月15日は根神社の祭日で、ここに古くから伝わっている三番叟がある。笛、太鼓、鼓の音について、若い露払い役の千歳の舞のうちに、翁役は白色尉という白い翁面をつけて翁の舞を演じ、その後、黒い老人の面をつけた黒色尉が鈴を鳴らしながら舞って終わる。この舞は、五穀豊穣、天下太平を願うもので、江戸時代（1603～1867）でもかなり古い時期までさかのぼる。

根神社の入口には石の鳥居があって、それには宝暦2年（1752）という年代銘があるが、この神社の三番叟はこの頃から始まったのだというから250余年も以前から絶ゆることなく続いている。

そして、また、この三番叟の引き幕がすばらしい。それは今を盛りと咲き乱れた桜の大木を中心に桜の木に登ったり、花の枝を手に持ったり、チャルメラ（唐人笛）を吹いたりして楽しげに遊んでいる唐子たちを描いた草木染の図柄で、三番叟と太鼓、鼓などと共に重要なものである。